

1. 調査概要

1. 1 調査目的

障害者スポーツ指導者に関する現状および課題等を明らかにすることによって、地域で健常者と障害者がともにスポーツ・レクリエーション活動を楽しむための方策に資するデータの把握および分析を行うとともに、障害者の指導に対応できるスポーツ・レクリエーション指導者の可能性を検討することを目的とする。

1. 2 調査方法

【調査 1】データの二次的利用 1

(1) 調査方法

公益財団法人日本障害者スポーツ協会「2011 年度 日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導者登録者数(2011 年 12 月 31 日現在)」のデータを二次的に利用し、現状の登録者数の状況を調べた。併せて、日本体育協会のスポーツリーダーを除く、公認スポーツ指導者数(2011 年 10 月現在)と、スポーツ推進委員数(2011 年 7 月現在)のデータも二次的に利用し、指導者数の比較を行った。

【調査 2】データの二次的利用 2 (質問紙調査)

(1) 調査方法

公益財団法人日本障害者スポーツ協会が 2012 年に実施した「障害者スポーツ指導員に関する調査」(質問紙調査)の結果を二次的に利用した。

(2) 分析対象

「障害者スポーツ指導員に関する調査」は、公益財団法人日本障害者スポーツ協会公認資格である障害者スポーツ指導員(初級・中級・上級)の登録者 21,924 人(2011 年 12 月現在)を対象に実施され、回収数は 3,803 件(回収率:17.3%)であった。本報告においては、極端にサンプル数の少なかった 10 代 11 人および資格種別に無回答であった 1 人の合計 12 人の回答は分析の対象から除外し、3,791 件を有効データとした。

(3) 調査内容

- ◆ 回答者の属性
活動登録地の都道府県、性別、年代、職業
- ◆ 指導員資格の取得状況
資格種類、資格取得講習の種類、取得経過年数、資格取得目的、資格取得の利点、活動頻度、現状より上の資格取得の希望、講習会内容(希望)
- ◆ 活動の状況
満足度、活動場所、活動現場での主な役割、活動上の問題点、今後の協力の可能性、望まし

(4) 分析方法

記述統計ならびにクロス集計を行った。

(5) 用語の定義

本報告書では、日本障害者スポーツ協会公認の障害者スポーツ指導員(初級・中級・上級)を「指導員」、スポーツ指導に携わる者すべてのことを指す場合には「指導者」とした。

【調査 3】事例調査(ヒアリング調査)

(1) 調査方法

資格取得の経緯や指導している種目など、指導の実態をより詳細に把握するため、指導者個人に対してヒアリング調査を行った。指導者の養成と活用・連携における特徴的な 2 県の取組みとあわせて報告する。

(2) 調査内容

◆ 指導者個事例

指導者の属性(性別・年代)、有する指導者資格の種類、指導種目、対象者の障害種別、活動回数、資格取得の経緯など

◆ 指導者関連組織事例

指導者の属性(性別・年齢など)、指導種目、対象の障害種別、活動回数、活動謝金(報酬)、指導者養成・研修、指導者関連組織間の連携状況、指導者に関する問題点・課題など

(3) 調査期間

2012 年 11 月～2013 年 2 月